



学校だより



立間小学校ホームページ <https://tachima-e.esnet.ed.jp/>

令和4年7月15日

宇和島市立立間小学校

まぼろしの教科「自由研究」 その意義は？

坂本 新一郎

夏休みの課題の定番である「自由研究」。「なにをすればいいの？」と苦悩する我が子とともに、夏の終わりを感していた十数年前。この自由研究には、いったいどのような教育的な意味があり、取り組むことによって、どのような力が得られるのでしょうか。

「自由研究」という言葉を調べてみると、昭和22年にできた戦後初めての学習指導要領に登場してきます。学習指導要領は学校での教育内容の基準を示すもので、自由研究は国語や算数と同じ「教科」（小学校では4年生以上で週に2～4時間）として記載されています。児童の興味と能力に応じて、教科の発展学習などを行う時間として設置されました。しかし4年後の学習指導要領改訂で、自由研究は発展的に解消されてしまいました。

時は下り、平成12年度から段階的に始められた「総合的な学習の時間」は「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」ことなどをねらいとしており、戦後の「自由研究」の理念と類似したところがあります。（本校では、環境や福祉、郷土学習など身近な問題をテーマとして、子どもたちが主体的に学ぶスタイルで進めています。）

自由な時間が多く取れる夏休みに、自分が興味をもっていることをテーマに定め、じっくりと調べたり、観察したり、ものづくりをしたりする自由研究の進め方は、「総合的な学習の時間」のそれとよく似ており、戦後の「自由研究」にも繋がりを感じます。自由研究は、これからの社会を生き抜くうえで大切とされている力の育成が期待できると言えるのではないのでしょうか。自由研究に取り組んでみませんか？

応援ありがとうございました！～校内水泳大会（プール参観日）～

7月8日（金）に校内水泳大会を行いました。実に3年ぶりの開催です。

まずは、1～3年生の部。小プールと大プールに分かれて行いました。小プールでは、だるま浮きやけのび、バタ足練習、宝探し競争、大プールでは、ビート板対決や25m・50mの泳力測定などを行いました。プールサイドからの温かい応援を受けて、みんな張り切って泳ぎました。次に4～6年生の部。潜水チャレンジや25m・50m競泳、チーム対抗リレーなど、水泳大会らしく、見ていて手に汗握るレースばかりでした。放課後水泳練習の成果を発揮し、ベスト記録を更新する子が多くいました。確実に体力が付いている証拠です。



児童朝会（俳句集会・水泳記録会壮行会）

今月は、俳句集会と水泳記録会を行いました。

俳句集会では、池田多津子先生をお招きしました。先生からは、言いたいことをはっきりさせてから言葉を選ぶことや言葉の順番を変えてみる推敲の仕方など、俳句づくりで大切なことを教えていただきました。

水泳記録会の壮行会では、選手一人ひとりが、自分の目標を力強く発表しました。目元には、ゴーグルの跡がくっきり残るほどの練習量です。選手のみなさん、自信を持って記録会に臨んでください！

「日焼けあと 夏限定のお洋服」5年 M・Y

